

研 究 所 日 誌

昭和52年4月1日～10月31日まで
桃山学院大学総合研究所

〔A〕 国際交流

a ボッコーニ大学との共同シンポジウム関係

1 シンポジウム

- ① 主 催：ボッコーニ大学東アジア経済社会研究所
桃山学院大学総合研究所
- ② 後 援：朝日新聞社／日本イタリア学会
- ③ テーマ：現代日本の社会—国際比較の観点から—
(第1部) 戦後の経済成長 (第2部) 経営者の Behavior
(第3部) 戦後の政治過程 (第4部) 社会構造の変動
- ④ 日 時：昭和52年8月23日AM9:30～PM6:00 (第1部, 第2部)
24日 “ “ (第3部, 第4部)
- ⑤ 場 所：OMM (大阪マーチャンダイズマート) 19F会議室
- ⑥ 参加者：ボッコーニ側5名, 学外教員39名, 本学教員47名, 学生4名 (計95名)

2 関係の催し

- ① 大阪市レセプション 8月23日夜, ホテルキャッスル
- ② 桃山 “ 8月24日夜, 吉祥苑
- ③ 本学見学 8月25日午前中
- ④ 立食パーティ 8月25日午後 大阪都ホテル
- ⑤ 工場見学 8月26日午前 松下電器産業(株)門真工場
午後 新日本製鉄(株)堺製鉄所
日本ピローブロック(株)中モズ工場／三原工場
- ⑥ 懇談会 8月26日午前 松下電器労組と話合
8月27日午前 堺市内の中小企業経営者との話合
於・堺商工会議所, 9つの中小企業経営者参加
午後 労組幹部と話合 於・労調研

3 関係会合

- ① 実行委員会 (研究所委員会) 4/22・5/18・5/25・6/1・6/8・6/15・6/22・6/29・7/6・7/14・8/17
- ② ボッコーニ側との共同実行委員会 7/30 (於・院長室) 8/22 (於・国際ホテル)
- ③ 編集のための会合 7/20, 8/1, 8/5
- ④ 反省会 9/16 (研究所委員会で)
9/21 (全体反省会, 参加18名) 於・研究所

4 その他関連事項

- ① 新聞掲載 (朝日新聞) 8/11(夕刊) 8/19(朝刊) 8/28(朝刊) 9/24(夕刊)
- ② 国際電話打合せ (日↔伊) 6/13, 6/22, 6/29, 7/6, 7/13, 7/20
- ③ 作成印刷物 案内パンフ・案内状・出欠ハガキ 6/17完成, 各1000部
プログラム(日本語) レジュメ(英文) 8/12完成, 各1000部
- ④ 執行予算 289万円, 内訳(印刷費50/会場費20/航空運賃127/宿泊滞在費33/写真)
(代1/交通費23/電話代19/郵便料3/会合費11/雑費2)

b その他の国際交流関係

1 Giorgio Stefani 教授来学
(イタリアFerrara 大学)

- ① ジョルジョ・ステファニー教授来学, 研究会
- ② 日 時 10月7日PM1:00~4:30
- ③ 場 所 研究所会議室
- ④ テーマ イタリアの都市問題と地方財政
- ⑤ 主 催 経済・経営学会/社会学会/総合研究所
- ⑥ 参加者 ステファニー氏と本学教員13名

2 イタリア・ボッコーニ大学へ出張
(予定)

- ① 出張教員 藤沢/熊谷
- ② 期間 11月18日~11月26日
- ③ 今後の交流, 提携について(次回シンポジウムのテーマ/資料交換その他)

3 ボッコーニ大学との資料交換

- ① 本学→ボッコーニ大学東アジア経済社会研究所へ 5/20, 27万円分の書籍を船便で送付

4 ソ連科学アカデミーとの話合

一ソ連側から立命館大学を窓口として関西の私立大学との学術交流を希望して来る—
10月26日(月)/宝塚ホテル

出席者:〔ソ連側〕ソ連科学アカデミー財政担当副会長, 及び極東研究所学術局長の2名を含む計5名

〔日本側〕立命館大学:畑中和夫氏, 本学:勝部, 内海, 藤沢

会合内容:①資料交換の件, ②人的交流の件 ③共同シンポジウムの件

上記3点につきソ連側からの案が出され, 今後関係を保ちながら検討課題とすることになる。

参加大学:立命館, 龍谷, 関学, 同志社, 本学の各研究所(予定)

〔B〕 共同研究(プロジェクト)関係

① 現代世界とアングリカン神学の役割 代表:藤間繁義

4月16日 研究会「Bp letters の整理と Historiography (所報2-1)のその後の状況について」

場 所:学内, メンバー:滝沢武人, 岡精三, 小谷春夫, 藤間繁義

4月17日 以降断続的に, 資料集収・整備

4月29日~5月3日, 調査活動「戦中・戦後の日本聖公会神戸教区の動向についての山陰有力教会の調査」

場 所:島根県松江基督教会, 同浜田基督教会, メンバー:藤間繁義及び現地助力者

7月2日 懇談会「現代日本社会の習俗とキリスト教の影響, 例えば神前結婚等の問題について」

場 所:学内, メンバー:山本忠尚氏(本学講師, 奈良国立文化研究所埋蔵文化財センター研究員)を囲んで, 滝沢, 岡, 藤間

7月26日 研究会「総括報告と年度内に第一段階を終える為の方策についての検討」

場 所:御殿場東山荘(キリ同盟研修会終了後)メンバー:岡, 滝沢, 野々目晃三, 八代崇, 藤間

9月10日 打合せ会「共同研究まとめとしてのシンポジウムの立案及びキリスト教論集の編集について」

場 所:学内, メンバー:岡, 滝沢, 小谷, 藤間

② 現代企業の学際的研究 代表:植村省三

6月30日 研究会「企業の社会的責任に関する社会学的問題」(倉橋重史著, 所報3-1)の原稿段階での検討会

場 所:学内, メンバー:稲別正晴, 梅沢正, 倉橋重史, 鬼塚光政, 植村省三

8月2日 研究会 稲別, 植村, 梅沢氏のボッコーニとのシンポジウムでの報告内容の予備的検討及相互討論

場 所:昭和町院長室, メンバー:稲別, 梅沢, 倉橋, 鬼塚, 植村

③ 戦後日本の所得分配に関する理論的実証的研究 代表:伊代田光彦

5月13日 研究会「プロジェクトテーマをめぐる問題点の整理」

場 所:学内, メンバー:植田政孝, 桂昭政, 伊代田光彦

9月22日～23日 研究会 各担当分をレポート 場 所：国民宿舎「吉野山荘」
植 田：「地域所得について」 メンバー：左記3名
桂 田：「国民所得研究について」
伊代田：「機能的所得分配について」

④ 被差別部落の現状分析 代表：庄谷邦幸

6月10日 研 究 会 ①「被差別部落の実態分析の方法について」 場 所：昭和町会議室
② 総理府「同和対策の現況」の論評
6月18日 研 究 会 「被差別部落の実態分析と同和行政の諸問題」一報告一山本 登（大阪市大教授）
場 所：昭和町MAC会議室
9月～ 実態調査 和泉市の被差別部落の実態調査の準備に入る

⑤ 現代世界の政治・経済過程の研究 代表：柳田 侃

5月27日 研 究 会 「52年度の活動計画の審議」
場 所：阪南荘，メンバー：柳田侃，野村昭夫，藤沢道郎，岡崎守男，永井清彦，奥泉清，村山
高康
6月24日 研 究 会 「戦後世界体制の崩壊とスタグフレーション」奥泉報告のもとに討論
場 所：なにわ会館，メンバー：柳田，野村，藤沢，村山，岡崎，永井
7月12日 研 究 会 「石油危機以降の第三世界」柳田報告のもとに討論
場 所：なにわ会館，メンバー：柳田，野村，奥泉，藤沢，村山，岡崎，永井
10月21日 研 究 会 「藤村信著，西欧左翼のルネサンスをめぐる」村山報告のもとに討論
場 所：なにわ会館，メンバー：柳田，奥泉，藤沢，村山，岡崎，永井

⑥ 日本語とヨーロッパ諸語 代表：藤沢道郎

5月18日 研 究 会 「外国人に対するフランス語教育」岩津報告のもとに討論
場 所：学内，メンバー：藤沢道郎，岩津洋二，赤瀬雅子，大谷泰照，兼武進

⑦ 計画と市場—理論的ならびに実証的研究— 代表：竹浪祥一郎

5月30日 研 究 会 「年次計画の作成，各人の分担の確認」
場 所：学内，メンバー：竹浪祥一郎，山本紀徳，津田直則，鈴木幾多郎
6月27日 研 究 会 「研究発表および討論」津田報告のもとに討論
場 所：学内，メンバー：竹浪，山本，津田，鈴木

⑧ 大都市の将来フレームと総合福祉体系 代表 佐藤 洋

4月1日 報 告 会 「大都市における住民福祉の現況と問題点」（大阪市民政局奨励研究）調査研究結果の
報告
場 所：大阪市庁，メンバー：野々山，植田
10月6日 研 究 会 「ad hoc government と地域福祉」

※〈小型V.T.R.の社会学的研究〉〈Edinburgh Review の Contents Analysis〉の2つのプロジェクトの
活動報告（52年度分）は次号にまとめて掲載します。

〔C〕 大阪府委託調査関係

- ① 名称 地場産業技術実態調査
- ② 依頼先 大阪府商工部工業課
- ③ 引受先 桃山学院大学総合研究所
- ④ 期間 52年6月9日～12月28日
- ⑤ 調査対象 泉州地域を中心とした地場産業10業種
- ⑥ 〃 目的 市場存立基盤確保の抜本的対応策をさぐるため
 - ① 将来に於ける技術集約化の方向づけ
 - ② 公設試験研究機関の機能強化の方向性と技術振興施策策定の指針を得る

- ⑦ 調査費用 大阪府（商工部・工業課）全額負担
- ⑧ 調査スタッフ Cap：庄谷邦幸／後藤邦夫／並川宏彦／鈴木幾多郎／植田政孝 以上本学教員
三宅順一郎（奈良県立短大）／上田達三（関西大）／竹ノ内辰雄（八代学院大）
- ⑨ 経過
 - ㊦ 4/13 研究所委員会で引受けを決定
 - ㊧ 6/30 府との契約調印（6/9にさかのぼって契約）
 - ㊨ 6/18 日経（朝刊）に記事
 - ㊩ 府との打合せ会合 6/9, 6/14, 6/30
 - ㊪ スタッフ会合（研究会） 6/27, 6/30, 7/15, 9/6, 9/16, 9/24
 - ㊫ 中間報告 10/31原稿締切 11/5中間報告検討会合（予定）
 - ㊬ 調査・検討 夏期休暇中、各業種別にスタッフが行なう。

〔D〕 研究所発刊雑誌関係

- ① 総合研究所報 3巻1号（9月27日完成，650部）
3巻2号（10月末締切）
- ② 経済・経営論集 18巻4号（4月19日完成，1,000部）
19巻1号（7月22日完成，650部）
19巻2号（9月18日完成，650部）
- ③ 社会学論集 10巻2号（4月19日完成，1,000部）
11巻1号（10月1日完成，600部）
- ④ 人文科学研究 13巻1号（10月18日完成，600部）

〔E〕 その他

- ① 研究所長交代 本川所長が健康上の理由で辞任の為藤沢教授を後任に選出（10月14日付）
- ② 共同研究内規作成 52年10月14日付で発効，プロジェクトの諸活動はこの内規に従って行なうものとなる
（10月14日，プロジェクト代表者との話し合いを経て，同日の教授会で承認，発効となる）
- ③ 研 修 会 4月14日 第20回在関西私大研究所懇談会
於・龍谷大社会科学研究所
テーマ：「研究所規程の相互比較」

〔F〕 今後の予定

- ① 共同シンポジウム記録集発刊 53年3月発刊予定／英文，B5，110頁位，1000部／原稿締切，11月末日
- ② 各雑誌の締切及発刊予定
 - ㊦ 経済経営論集 19巻3号（10月15日締切，12月完成）
19巻4号（1月15日締切，3月完成）
 - ㊧ 社会学論集 11巻2号（1月14日締切，3月完成）
 - ㊨ 人文科学研究 13巻2号（11月10日締切，2月完成）
 - ㊩ キリスト教論集 14号（1月中旬締切，3月完成）
 - ㊪ 総合研究所報 3巻2号（10月末締切，2月完成）
- ③ 53年度共同研究申請締切 昭和52年12月20日